

ブラーミニメクラヘビの志布志市からの記録

林 悦子*・池 俊人**

Records of the Brahminy Blind Snake *Indotyphlops braminus* (Squamata: Typhlopidae) from Shibushi City, Osumi Peninsula, Kagoshima Prefecture

Etsuko HAYASHI* and Toshihito IKE**

はじめに

ブラーミニメクラヘビ *Indotyphlops braminus* (Daudin, 1803) は世界中の熱帯・亜熱帯地域に広く分布し、国内ではトカラ列島以南の琉球列島、鹿児島県本土の一部、伊豆諸島・小笠原諸島の一部などに分布する、有鱗目メクラヘビ科メクラヘビ属の陸生ヘビである。メクラヘビ科に属する種としては、日本には本種1種のみが生息している(中村・上野, 1972)。すべての個体が核型3倍体の雌で、単為生殖によって繁殖するため、人為的な分布の拡大が容易に起こることが知られている(内山ら, 2002など)。

鹿児島県本土での本種の分布について、中間(2007)は指宿市、枕崎市、鹿児島市、いちき串木野市からの記録を記載して、北部を除く薩摩半島の各地に本種が

広く分布することを報告している。

しかし、薩摩半島からの記録が豊富なのに対して、大隅半島からの本種の記録はこれまで非常に乏しかった。鮫島(1997)は大隅半島の両生類・爬虫類相について報告しているが、その中に本種は含まれていない。山田島(2009)は鹿屋市からの本種の発見について述べたが、詳細なデータについての記述はなかった。鮫島ら(2014)は、本種が県本土南部の海岸沿いの無霜地帯で普通に見られると述べているが、具体的な地名は示していない。

今回、私達は大隅半島の志布志市で採集された本種を入手することができたので、これまでに得られた採集個体・写真確認や目撃記録、聞き取り調査による情報と併せて報告する。



図1. 志布志市で採集されたブラーミニメクラヘビ *Indotyphlops braminus* (Daudin, 1803)

採集日：2015年12月16日、採集地：志布志市志布志町帖(志布志中学校)、採集者：後迫義人、
鹿児島県立博物館標本番号 RE01500004、全長72mm

* 志布志市文化財保護指導員：〒899-7192 鹿児島県志布志市志布志町志布志2-1-1

** 鹿児島県立博物館：〒892-0853 鹿児島県鹿児島市城山町1-1

採集個体の記録

2015年12月16日、志布志市志布志町帖にある志布志市立志布志中学校において、校庭の水道蛇口下の流しの上に生体1個体がいるところを同中学生の後迫義人君が発見し、採集した。採集された個体(図1)は鹿児島県立博物館に送付されたが、12月18日に博物館に到着した時点で既に死亡していた。そのため一旦冷凍した後に解凍して、観察および写真撮影を行った。その後、75%エタノールによる液浸標本として保管し、鹿児島県立博物館に標本番号 RE01500004として収蔵した。

この個体の体色は暗褐色で、全長は72mmであった。

体表が鱗で覆われる、非常に小さい眼がある、尾の先端が尖るなどの特徴が、中村・上野(1972)や内山ら(2002)などの記載によく一致したため、ブラーミニメクラヘビと同定した。なお、本報告で用いた標準和名と学名は、日本爬虫両棲類学会(<http://zoo.zool.kyoto-u.ac.jp/herp/indexj.html>)の日本産爬虫両生類標準和名(2015年5月28日改訂案)に従ったものである。

その他の記録や情報と所見

今回採集された個体の記録を含めて、2011年9月から2015年12月の間に志布志市で寄せられた情報をもとにした調査により、本種が採集・写真撮影・目撃され

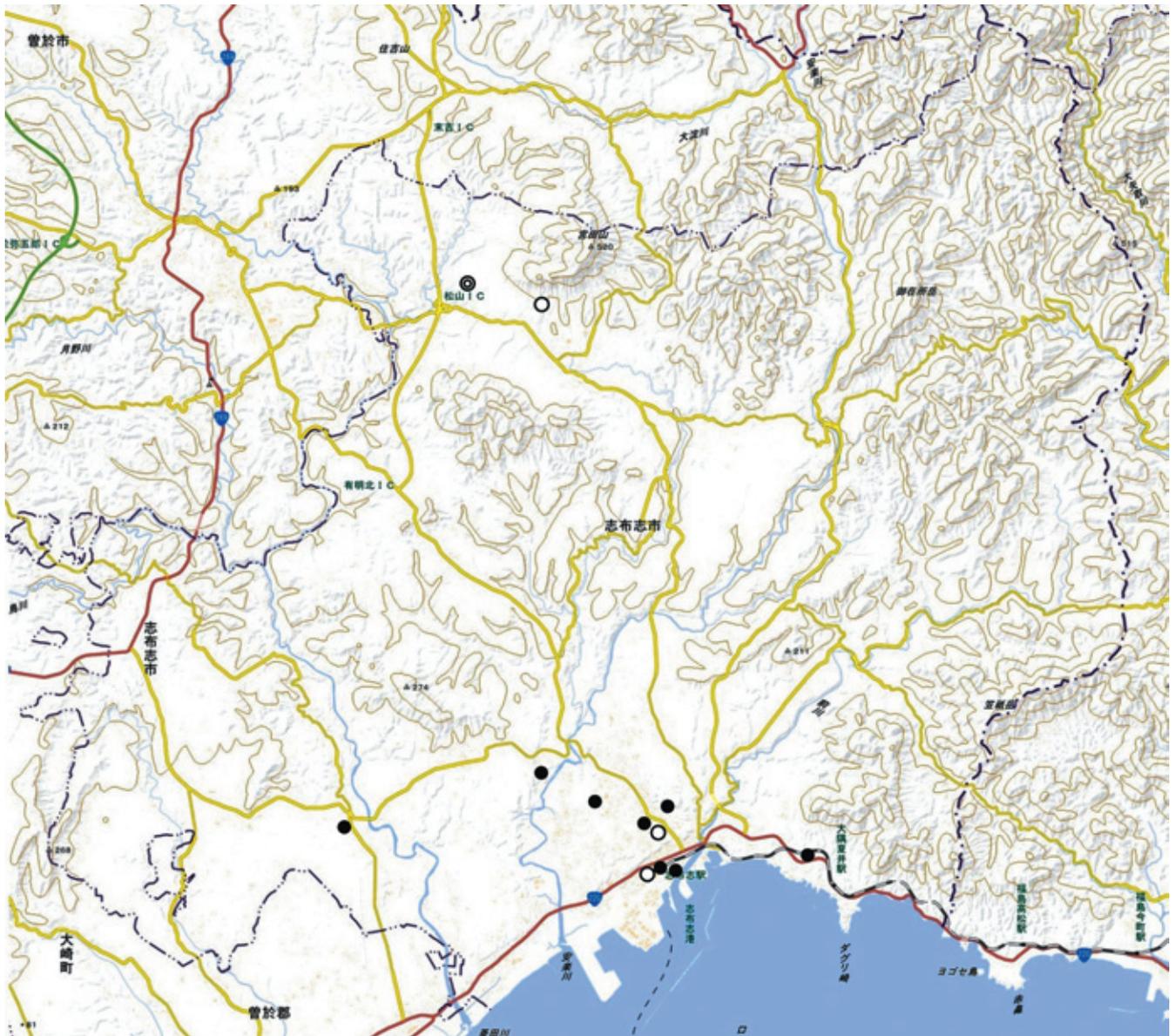


図2. 志布志市でブラーミニメクラヘビを確認した地点

●：著者が直接確認，◎：写真により確認，○：聞き取り調査で得た目撃情報（複数の記録がある地点では、信頼性がより高い確認方法を表示）

地理院地図 (<http://maps.gsi.go.jp/>) を加工して作成

た合計39個体の記録を得た。観察された場所の環境としては、畑や花壇、宅地造成地などが多かった。39個体の記録の内訳としては、著者自身が本種であることを直接確認したのが18個体、写真によって本種であることを確認できたのが4個体、目撃情報のみが17個体であった。

これらの記録の中には地点の近接・重複も含まれるため、地点別では図2に示したように12地点となった。その内訳は、著者自身が直接実物を確認したのが8地点（志布志町夏井、志布志町東町、志布志町志布志二丁目、志布志町帖、志布志町昭和台、志布志町町原、志布志町安楽上門、有明町蓬原）、写真により本種と確認したのが1地点（松山町新橋）、目撃情報のみが3地点（志布志町志布志三丁目、志布志町上昭和、松山町泰野）であった。志布志市を構成する志布志町、松山町、有明町の3町すべてを含む広い地域に本種が生息していることが判った。

また、今回聞き取り調査を行う中で、志布志市松山町新橋の橋口満氏と志布志市志布志町志布志2丁目の大慈寺住職の石田恵一氏の二人から、ともに幼少時の1960年頃から現地で本種を何度も目撃しているという、興味深い情報を得ることができた。薩摩半島でも1920年代から目撃情報があることが知られているが（中間, 2007）、この情報により大隅半島においても薩摩半島と同様に50年以上前から生息していることが示唆された。

志布志市以外の大隅半島からの記録としては、これまでに2009年5月に鹿屋市で本種が採集されたことが知られている（山田島, 2009）。この時採集された個体は標本にはされていないが、鹿屋市上高隈町で採集された個体が鹿児島県立博物館に送付されて、山田島崇文学芸主事（当時）が本種であることを確認している（山田島崇文氏からの私信）。

以上のように、志布志市の広い地域に生息していること、50年以上前から複数の地域で目撃されているこ

と、鹿屋市からも記録があることなどを考慮すると、大隅半島の他の地域においても本種が分布している可能性が高いものと推察される。

謝辞

志布志市立志布志中学校の後迫義人君には、採集したブラーミニメクラヘビを提供していただいた。志布志市広報誌「市報しぶし」では、2回にわたりブラーミニメクラヘビの情報提供を呼びかけていただいた。竹山求、川俣広樹、中川原学、川村俊弘、谷口寿美、濱崎司、別府泉、東春雄、大冨将範、中水一善、馬場実弘、橋口満、後迫貴光の各氏には聞き取り調査において、採集個体や写真、目撃情報の提供をしていただいた。大慈寺住職の石田恵一氏と屋久島環境文化研修センターの山田島崇文氏には、有益な情報を教えていただいた。ここに厚く感謝申し上げる。

引用文献

- 中間 弘(2007)ブラーミニメクラヘビの分布について(短報). 鹿児島県立博物館研究報告, 32:103-104.
- 中村健児・上野俊一(1972)原色日本両生爬虫類図鑑. 保育社, 大阪.
- 鮫島正道(1997)大隅の両生類・爬虫類相. 鹿児島県の自然調査事業報告書Ⅳ 大隅の自然 :60-63. 鹿児島県立博物館.
- 鮫島正道・中村正二・中村麻理子(2014)鹿児島陸生ヘビ類の分布と生態. *Nature of Kagoshima*, 40: 247-256.
- 内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関慎太郎(2002)決定版日本の両生爬虫類. 平凡社, 東京.
- 山田島崇文(2009)鹿児島動物16 ブラーミニメクラヘビ. 鹿児島自然だより, 37. 鹿児島県立博物館.